

血漿分画製剤に関する一般生活者調査概要（2013）

日本血液製剤協会（理事長：宮本誠二）では、一般生活者を対象に血漿分画製剤の意識調査を実施し、その結果を集計・解析した報告書を作成しました。

【目的】

今後の血漿分画製剤の安全性確保と安定供給の両立を図るために、その前提として安全で優れた品質の血漿分画製剤を開発・供給することの意義について、一般生活者の認識・評価を把握する。

【調査方法】

1. 調査期間：2014年2月25日～3月4日
2. 調査地域：全国
3. 調査手法：インターネット調査
4. 調査対象：全国に居住する一般生活者
5. 対象者条件：20歳以上の男女
6. 有効回収数：2,000
7. 調査機関：株式会社日本能率協会総合研究所

【調査結果】

1. 血漿分画製剤という言葉での認知は1割と少ないものの、説明用資料を呈示した上で精製方法や使用目的の認知はそれぞれ3割、4割となっている。また約4割の人が血漿分画製剤についてもっと知りたいと回答した。血漿分画製剤について情報提供の有効性がうかがえた。
2. 回答者自身、家族・友人ともに血漿分画製剤の治療経験がある人は数パーセントとほとんどおらず、また血漿分画製剤を必要とする難病患者がいることの認知は約2割であった。このことから血漿分画製剤治療に関する情報発信の必要性がうかがえた。
3. 血漿分画製剤の安全性の認知については説明用資料呈示前に血漿分画製剤が「安全そう」とのイメージは約2割であったが、資料呈示後は、約5割の人が安全対策への取り組みを評価する結果となった。このことから血漿分画製剤の安全対策への取り組み啓発の必要性がうかがえた。
4. 血漿分画製剤の安定供給の取り組みについての認知度は約1割であったが、説明用資料呈示後は、6割以上の人が安定供給への取り組みを評価する結果となった。このことから血漿分画製剤の継続的な安定供給の必要性がうかがえた。
5. 今後の血漿分画製剤について望むこととして、安全な血漿分画製剤が安定して必要な人々に継続的に供給されることが望まれていることが明らかになった。